

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

令和5年度 第1回 地域協議会 議事録

- 日 時：令和5年10月18日(水) 19:30～20:30
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 病院の近況について
2. 収支状況等報告
3. その他(意見交換)
- 出席者：松本雅彦(大宮医師会会長)、遠藤俊輔(自治医科大学付属さいたま医療センター長)、小池竜平(さいたま市保健衛生局地域医療課長)、三浦正稔(さいたま市保健衛生局保健所管理課主幹)五十嵐光一郎(さいたま市北区自治連合会会長)、黒田豊(院長)、永井純子(看護部長)、佐藤友彦(事務長)、藤原司(事務長補佐)、上見晴美(副地域医療連携室長)
- 院長挨拶
- 委員紹介
- 議長の選出：遠藤委員

1. 病院の近況報告

・別添資料により、病院の近況について佐藤事務長より説明

① 医師の確保について

(松本会長)消化器病センターを設置していただき非常に助かっている。医師会としてもバックアップしていきたいと考えている。よって、中止となったが交流会等の場所を設けて医師へアピールをしていただきたい。

(院長)交流会を予定したが第9波のコロナのピークと重なり感染拡大を鑑み、中止させていただいた。是非、再計画し実施したいと考えている。

(小池委員)さいたま市議会で希望があった脳神経外科の標榜科目への追加について

(院長)脳神経外科を置いてほしいという希望は以前にも伺ったことがある。現状、医師確保が難しい状況のなかで、自治医科大学附さいたま医療センターの脳神経外科の協力で月曜日と火曜日に非常勤医師で外来を診療している。地域住民の方々からのご意見を伺い、できるかぎりの範囲で診療をおこなっている。

(五十嵐委員)植竹地区と大里地区は非常にこの病院と地理的なこともあった身近に感

じているが、日進地区と宮原地区は、距離的なこともあって住民の理解が進んでいない。高齢化が進むなかで救急車は、ほとんど日本赤十字病院・埼玉東病院若しくは自治医科大学附属さいたま医療センターとなる。よって、さいたま北部医療センターを地域住民に理解していただくために植竹公民館と大里社会福祉協議会で定期的に病気に関する講演をお願いしたい。

(院長)コロナ以前は、定期的に植竹公民館等で病気に関する講演を実施していたがコロナが始まってからは自治会に協力いただき、回覧板に健康だよりを載せていただいている。コロナ終息後は、健康講座と通じて病院のことを知っていただくように活動を再開する。

2. 収支状況等報告(藤原事務長補佐)

・別添資料により、収支状況報告について藤原事務長補佐より説明

① 利用状況について

(遠藤委員)入院患者が減っているが外来患者は減っていない。診療単価はどれくらいか。

(佐藤事務長)

令和5年の8月までの実績で1人平均1万2,974円となっている。なお、昨年が1万3,000円であったことから26円減少している。

(五十嵐委員)令和2年に比べ外来患者が毎年30名ずつ増加しているがこれはコロナ患者であるのか。

(院長)コロナが発生した頃より発熱外来を別に設け、毎日予約制で診療を行い、ほとんど毎日予約枠いっぱいになっていた。よって、30名増加しているうち、発熱外来患者が20名近くであることをご理解いただきたい。

(遠藤委員)キャッシュフロー的に問題はあるのか

(佐藤事務長)建物の減価償却費等の資金が伴わない費用が多く、資金的には現在の診療収益で回っている。

3. その他(意見交換)

(遠藤委員)看護師等の医療従事者の確保は大丈夫なのか

(佐藤事務長)職員数については、本部より定員数が定められ、採用したくても採用出来ない状況。毎年、定数の交渉を行っているが経常状況が悪く、増員とはならない。

(遠藤委員)働き方改革の取り組みでA水準であるが具体的に一番多い医師の超過勤務

時間はどれくらいか。

(佐藤事務長)一番多い医師で月 70 時間程度となり A 水準はクリアしている。また、当院の救急対応の宿直は、さいたま労働基準監督署より許可をいただいているが、さいたま市休日夜間センターについては、休日夜間に執務いただいている医師との労働契約の関係でさいたま市と検討している。

4. 次回開催について

(藤原事務長補佐)令和 5 年度第 2 回は 3 月開催予定とさせていただきたい。

日程調整のうえ後日改めてお知らせする。

以上